

京都市立美術工芸高等学校 卒業生インタビュー

平成11年卒業
山口情報芸術センタースタッフ
(照明デザイン・オペレーション)

高原 文江

「何かに向き合い、考え感じた時間は
後からゆっくりと形になる。」



撮影：Gottingham
写真提供：山口情報芸術センター [YCAM]

美工で育まれた観る・考える・続ける力

私は美術工芸高等学校で日本画を学びました。子どもの頃から絵を描くこと、なかでも色を表現することが好きでしたが、「美術を専門に学ぶ」という進路を選んだ時点では、明確な将来像があったわけではありませんでした。

入学試験の際、周囲の受験生が描いた作品の完成度の高さに圧倒され、「これは落ちたかもしれない」と感じていました。そのため、合格を知ったときの驚きは、今でもはっきりと覚えています。

美術工芸高校で過ごした3年間は、技術を身につけるだけでなく、「ものを見る力」「考える力」「続ける力」を養う時間でした。日本画の制作では、対象を丁寧に観察し、自分なりに解釈し、それを形にしていきます。その積み重ねの中で、すぐに答えの出ない問いに向き合い続ける忍耐力や、自分の選択に責任を持つ姿勢が、自然と身についていったように思います。

一方で、制作の合間に校舎と校舎の間のベランダでベンチに寝転がり、隙間から見える空の変化を眺める時間

も、私にとっては大切なひとときでした。一見すると無駄な時間のように思えるかもしれませんが、普段は意識しないものをじっくり観察し、その感覚を養えたことは、現在の仕事にも大きく役立っています。学校全体にそうした時間を許してくれる雰囲気があったことも、今振り返ると得難い経験だったと感じています。



文化祭で出会った「集団制作」と進路の転機

現在の仕事に興味を持つきっかけとなったのは、高校の文化祭でした。当時はクラスごとに舞台公演を行っていました。舞台上に直接関係する学科があるわけでもないのに、なぜ舞台公演を行うのだろうと疑問に思いながら取り組んでいましたが、その中で、それまでの個人制作とは異なる、アイデアを出し合いながら一つの作品をつくり上げていく「集団制作の面白さ」を初めて知りました。

あとになって振り返ると、舞台は音楽、美術、身体表現などが組み合わさった総合芸術です。美術専門高校で学ぶ生徒にとって、とても相性の良い表現の場だったのだと思います。さらに、そこには必ず観客が存在し、作品の先に「見る人」がいること、その反応を意識できたことも、強く印象に残る体験でした。

高校卒業後は、京都造形芸術大学芸術学部映像・舞台芸術学科に進学し、舞台制作を学びました。在学中から照明デザイナーのもとで実践的な経験を積み、大学院修了後はフリーランスの照明デザイナーとして活動しました。美術工芸高校で培った「空間を意識する感覚」や「色や光に対する感受性」、そして対象を観察し、自分なりに解釈して形にする力は、舞台照明という分野で大いに役立ちました。

加えて、舞台は“なまもの”であり、稽古や本番を通して作品が変化していきます。その変化を受け止めながら柔軟に物事を考える姿勢が求められる点においても、高校で培った感覚や考え方は大きな支えとなりました。



撮影：山中慎太郎 Qsyum!
写真提供：山口情報芸術センター [YCAM]
展示風景「Dance Floor as Study Room—したたかにたゆたう」
山口情報芸術センター
[YCAM]、山口、2024年



撮影：Gottingham
写真提供：山口情報芸術センター [YCAM]

現在の仕事と、美術を学ぶことの意味

その後、現在はアートセンターのスタッフとして、展覧会や舞台公演の照明デザイン・オペレーションに加え、作品ごとのフィールドワークやバイオテクノロジーを扱うラボの運営にも携わっています。

一見すると異なる分野に見えるこれらの仕事も、「対象を丁寧に観察し、自分なりに解釈し、それを形にする」という点では共通しています。作品にとって必要な表現とは何か、そのためにどのような技術が必要なのかを考えることが、今の仕事の軸となっています。こうした姿勢の基盤は、高校時代に培われたものだと感じています。

美術を学ぶことを起点に、自分の感覚や考えを信じ、時間をかけて育ててきた経験は、将来どの分野に進んだとしても大きな支えになると実感しています。

中学生のみなさんには、迷いながらも構いませんので、「本当に興味のあること」に正直でいてほしいと思います。すぐに見つからなくても、はっきりと言葉にできなくても大丈夫です。何かに向き合い、考えたり感じたりした時間は、あとからゆっくりと形になっていきます。

美術を学ぶ時間は、自分自身と静かに向き合う時間でもあります。その経験は、これから先どの道を選んだとしても、きっとそっと背中を支えてくれるはずです。